

【市議会最前線】議会DXで市民の信頼UP！＝玉名市議会（熊本県）

25/10/06 08:00 Nf001

熊本県北部の玉名市は、有明海や菊池川、小岱山に囲まれた豊かな自然と歴史的資源、温泉にも恵まれた都市です。人口は約6万2000人、市議会は現員20名（男性18名、女性2名、定数22名）で構成されています。

玉名市議会は、昨今の議員活動の透明化という社会的要請に応えるための一環として、2024年10月から、株式会社エイブルコンピュータが開発したシステム「セムカン」を実証実験として導入し、政務活動費の報告から公開までのプロセスのDXに挑戦しました。

従来は、年度末に議員が紙ベースで政務活動費の報告を行い、議会事務局が領収書の確認、集計、PDF化、ホームページへの公開といった作業を行っていました。多忙な年度末に集中するこの作業は、膨大な時間と労力を要し、ミスやチェック漏れのリスク、市民に分かりづらいPDF形式での公開といった課題がありました。

「セムカン」導入により、これらの課題の多くが解決。オンライン提出により議員はいつでもどこでも報告が可能になり、事務局職員の負担も大幅に軽減されました。年度末に集中していた業務が通常時に分散化されることで、職員一人当たり年間約40時間の業務時間が削減され、チェックの強化やミス防止対策により多くの時間を割くことができました。



全議員向けの研修会の様子



少人数でのセムカン寺子屋の様子

また、「セムカン」の機能を活用することで、データの視覚化による透明性向上も実現。市民はより立体的に政務活動費の使いみちを見ることができるようになりました。視覚的なバブルチャートなどを用いた情報公開は、市民の理解促進と信頼獲得につながっています。

このプロジェクト成功の鍵は、議会DX推進に対する議員の理解と協力でした。議員の平均年齢は60歳以上で、新しいシステムへの不安もありました。しかし議会事務局職員による丁寧な個別支援によって不安は解消され、特に、毎週1時間設けた「セムカン寺子屋」での操作サポートは、議員のデジタルデバйдの解消に大きく貢献しました。

玉名市議会は、この取り組みを市のDXビジョン（「すべての市民に寄り添うデジタル行政の実現」）に基づくものと位置付け、デジタル技術を活用した政務活動費の透明性向上、市民の信頼確保に努めています。この成功事例は、業務標準化やデジタルデバйдへの対応など多くのノウハウを含み、全国の議会の参考となることを期待しています。今後は、積極的な情報発信や意見交換、事例共有などを通して普及活動を進めていく予定です。（了）

